

「疲れ」を明日に持ち越さない

プレー前にウォーミングアップを行うのは常識だが、ラウンド後のアフターケアをおろそかにしているゴルファーが多い。酷使した体をクールダウンさせることはプロスポーツの世界では当たり前となっている。

プレーで生じた「疲れ」を明日に持ち越さないために、クールダウンの重要性と方法を専門家に教えてもらった

ラウンド後の クールダウン 最前线

ピッチャーの
アイシングのように
ゴルフも
クールダウンが
必要です



解説・菅原賢さん（ゴルフレーナー）
トータルゴルフフィットネス代表。07年に上田桃子のトレーナーを務め、賞金女王獲得をサポート。現在、木戸愛や川岸史果などを指導中

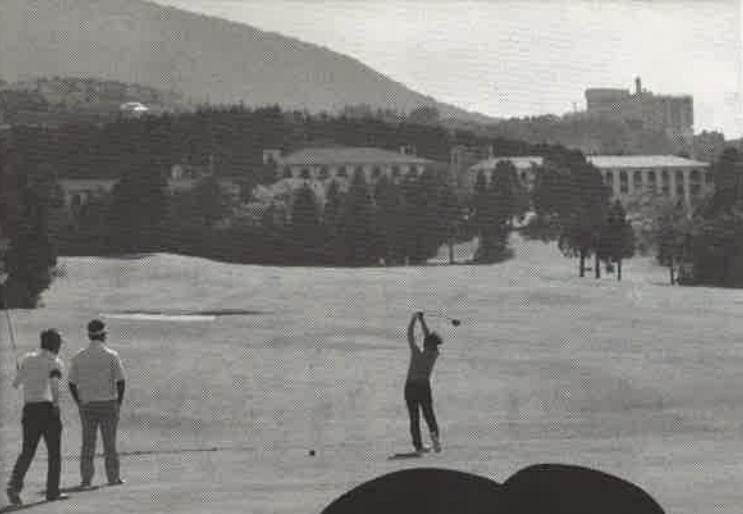
メジャーリーガーの田中将大投手のように、野球の投手が登板後に肩やひじをアイシングしているシーンをよく見かける。ゴルフトレーナーの菅原賢さんに聞くと、「アイシングには、切れた筋繊維の再生能力を高める効果があるんです。投手が肩やひじを過度に使うのに対し、下半身をたくさん使った後は、下半身をたくさん使うサッカー・ラグビーの選手は試合後、氷風呂に入っています」

ゴルフは野球やサッカーほど激しいスポーツではないが……。

「ゴルフに息が上がるほどの運動強度はありませんが、5~6時間歩きながらプレーし続けているのでは、次の日に感じる疲労は他のスポーツと変わりません。疲れの多くは乳酸などの疲労物質がたまるところから生じる筋肉のハリ・コリ・痛み。プレー後は筋肉が硬直しているので、クールダウンで筋肉をケアしてあげることが大切なことです」（菅原）

では、クールダウンは何から始めるべきなのか？ 菅原さんは「まずは栄養補給です」と教えてくれた。プレー中と同様にランニング後も水分補給が不可欠となる。

「体の水分量と筋肉量はある程度



【ラウンドの疲れ】

(疲労物質の増加)

疲労物質の除去

方法は3つ

栄養
補給

血流の
回復

筋肉の
柔軟性を
回復

“疲れ”が残らない！



疲労を取り除く①

栄養補給

「水分、アミノ酸、ミネラルをすぐに補給」

アミノ酸やミネラル入りのドリンク、ゼリーなどで、水分と栄養を同時に補給しよう。帰りの運転時のこむら返り(足がつる)などの予防にもなる



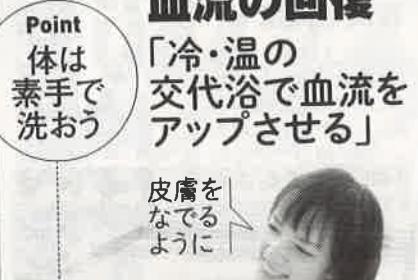
おすすめはコレ

必須アミノ酸の入ったものを選ぼう。酢の物や海産物も疲労回復効果が高い

疲労を取り除く②

血流の回復

「冷・温の交代浴で血流をアップさせる」



Point
体は素手で洗おう

皮膚をなでる
ように

ぐに水分や栄養を補給するよ
うにください」（菅原）

プロゴルファーは必須アミノ酸（体内で作れないアミノ酸）入り

うでなでるよ
うにください」（菅原）

「寝るまでに
クールダウン。
翌日の体の
“軽さ”が
違います」
（菅原）

水風呂と温かい風呂に交互に入る交代浴は血管を促し、血流を高めてくれる。素手でなでるように体を洗うと、筋膜リリース効果があるのでおすすめ

「寝るまでに
クールダウン。
翌日の体の
“軽さ”が
違います」
（菅原）

の飲料を摂取している。水分も栄養も補給できるので参考にしたい。続いて行うのは血流の回復だ。コースの大浴場で実践してもらいたいのが「交代浴」だという。

「冷たい水風呂（なければ水やぬるめのシャワー）と温かい風呂を交互に使い、強制的に血管を収縮させ、血流を改善させるのです。

ただ、体の水分量が少ないとケガの原因になるので、水分が満たされた状態で行ってください

の回復、最後にマッサージやストレッチで筋肉の柔軟性を回復させることができます。この3つを寝るまでに行つてください。そうすれば、翌日の疲労感はなくなり、体も“軽く”感じられるはずですから」（菅原）



足がつる「こむら返り」は筋肉の硬直から生じる。とくに夏は水分不足が最大の原因。寝ているときにつるるのは急激な温度変化による場合が多い

疲労回復の基礎知識②



「冷やす・温める
どちらがいいの？」

疲労回復の基礎知識①

